

科目名	法学 Law			担当教員	山岡健次郎		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	10G05_20310	単位区別	履修
学習目標	法は社会生活の大切な社会規範の一つである。まず、法についての一般的な内容を理解する。そして、憲法、民法、刑法など重要な法律について理解する。さらに国際法についても学ぶ。人権、財産権など実際の判例や事例を参考にして、自ら物事を法的に考える力を身に付けることを目標とする。						
進め方	教科書を中心として講義形式で進める。必要に応じて、判例や事例を学ぶ。また、実社会の出来事を法的に考えていく。判例や事例については、自分なりの感想を持てるようにする。内容が多岐にわたるので、要領よく学習を進めることが大切である。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 法とは何か(2) 2. 法と道徳(2) 3. 法の目的(2) 4. 裁判制度(2) 5. 法の解釈(2) 6. 憲法の基本原理(2) 7. 基本的人権(2)			法について、正義などの一般的な内容を理解する。 A3:1 日本国憲法の基本原理、基本的人権及び統治機構について理解する。 A3:3			
	[前期中間試験]						
	8. 統治機構(2) 9. 財産法(2) 10. 取引法(2) 11. 物権と債権(2) 12. 契約(2) 13. 不法行為(2) 14. 家族と法(2) 15. 親族・相続法(2)			民法の総則、物権、債権、親族、相続編を理解する。 A3:4			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答(1) 17. 犯罪と刑罰(2) 18. 犯罪の成立要件(2) 19. 刑事手続き(2) 20. 当事者主義(2) 21. 公訴・公判(2) 22. 雇用関係法(2)			刑法、刑事訴訟法について理解する。 A3:1 労働三法、男女雇用機会均等法などを理解する。 A3:3			
	[後期中間試験]						
	23. 労使関係法(2) 24. 独占禁止法(2) 25. 不公正な取引方法・私的独占の禁止(2) 26. 知的財産と法(4) 27. 特許権(2) 28. 著作権(2) 29. 国際法・国際私法・国際取引法(2)			労働三法、男女雇用機会均等法などを理解する。 A3:3 独占禁止法について理解する。 A3:1 知的財産権について理解する。 A3:1 国際社会と法について理解する。 A3:3			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答(1)						
評価方法	定期試験、授業中の態度などを総合的に評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	政治経済（3学年）						
教材	教科書：唐澤宏明著 「はじめて学ぶ法学」 三省堂						
備考	特になし。						